

満月の夜開く けいはんな哲学カフェ

第49回「ゲーテの会」

未来に向かう人類の英知を探る
— 時代の裂け目の中で、人々は何に希望を見出してきたか —

《科学・技術分野》

「日本の「原子力開発」を推進した人々の構想力」

講師：東京工業大学名誉教授 **山崎正勝**先生

【講演要旨】 2011年3月の福島原発事故の発生で、それまで一部の専門家だけのものだった日本の原子力発電の歴史に、多くの一般の人々の関心が寄せられるようになった。この講演のタイトルには「推進した人々の構想力」とあるが、日本で原子力事業が始まった1955年当時は、福島原発事故のような過酷事故(シビアアクシデント)を予想した人々は、国際的に見てもごく少数だった。日本では、広島、長崎の原爆投下と1954年のビキニ水爆被災を経験していたにもかかわらず、原子力の平和利用への期待は国民の中でも強かった。また、1959年に日本で初めての原発過酷事故予想報告書が出たときも、それが福島原発事故規模の被害予測をしていたものの、その評価は原発批判派の中でも低かった。どうしてこのようなことになったのか。この講演では、その理由を辿りながら、先人たちの努力の文脈を探ってみたい。

【講師紹介】 1944年、静岡市生まれ。東京目黒で育ち、東京都立大学付属高校を卒業後、東京工業大学で物理学を学び、1972年3月同大理工学研究科物理学専攻博士課程を修了、理学博士。76年に三重大学助教授となり、一般教育科目の「自然科学概論」を担当。このころ専門を物理学から科学史に移し、最初の科学史の論文で大阪帝国大学の成立を論じた。82年、東京工業大学工学部助教授となり、「科学概論」を担当、88年、同大学教授。96年より、同大学大学院理工学研究科教授として技術構造分析講座を担当、2010年に定年退職、名誉教授となる。共編著書に『原爆はこうして開発された』（青木書店）など。2012年、『日本の核開発：1939～1955—原爆から原子力へ』（績文堂）で科学ジャーナリスト賞受賞。

日時：2017年7月7日(金)18:00～20:30
会場：公益財団法人国際高等研究所
参加費：2,000円(交流・懇談会費用を含む)
定員：40名(申し込みが定員を超えた場合は抽選)
申込：裏面のURLからお申込みください
詳細：<http://www.iias.or.jp/communication/goethe>
締切：2017年7月5日(水)

 公益財団法人
国際高等研究所
International Institute for Advanced Studies

けいはんな「ゲーテの会」とは・・・

けいはんな学研都市の建設理念は、「従来の近代科学技術文明を乗り越え、新たな地球文明を創造するために、西欧が生み出した文明の成果と自らに固有の東洋的文化を総合する」ことにあります。高等研にあるゲーテの胸像はその理念のシンボルです。満月の夜は高等研で、人類の未来と幸福・けいはんな学研都市の将来について一緒に考えてみませんか。

